

### 願う教化ー「真宗公開講座」の願い

■質問その1 今回の文章は対象をごく絞り込んで書いている。対象は、今この文章を読んでおられる「あなた」だ。

私たち飛騨御坊真宗教化センター伝道部会は、部会の柱となる事業として飛騨御坊を会場とした「真宗公開講座」を開催している。今に始まった話ではなく、先のセンター第1期の3年間から同じ形態での開催だ。

さて、ここで質問。その真宗公開講座、年間何回開催されているかあなたはご存知だろうか？

■質問その2 正解は、年間7回の開催だ。

11月の高山別院の報恩講をその年度の第1回とし、それ以降、毎月1回、5月までの開催で、今まさに今年度の講座の開催期間の真ただ中だ。センター長が事あるごとに言われる「報恩講が(我々の年間の)教化活動の集大成である」の言葉を受け、11月の高山別院報恩講を起点としての毎月連続講座として「真宗公開講座」は開催されている。

この真宗公開講座、近年の大きな懸念として、各回の聴講人数の減少がある。かつては、本堂下のご坊会館に入りきらないほどの聴講者がおられたそうだ。でも近年では30人弱/回であり、主

催側も、実は、先生が入室される前の聴講者数(空席具合)には毎回ハラハラしている。

さて、ここでまた質問。あなたは今年度、真宗公開講座を1度でも聴講されているだろうか？

■誤解その1 どうもこの「真宗公開講座」、主にご門徒さん向けの講座であると勘違いされている節があるようだ。あなたも是非胸に手を当てて(あるいは合掌して)考えてみて欲しい、心の中でちょっとだけ「私にゃあ関係ないな」という思いが無いだろうか？

確かに、主催団体としては「真宗同朋会」であったり「高山一組真宗の会」であったりと、ご門徒主体の回が多い本講座、「ご門徒対象」の講座として理解されがちなのも良く解る。でも、実はその理解では、50%だ。

では誰が対象か？それは、伝道部会のテーマの「共に継続して聞法して行けるサンガの形成を目指す」という言葉に込められている。また、真宗公開講座は、センターの理念にある「教区、別院、各部会、組、寺院、家庭を貫く、協力・協働(タイアップ)による、相乗教化体制『十文字教化』を目指す」が非常に解りやすく具現化されている事業だ。即ち、主催側も僧侶共であり、また対象としている聴講者も、僧侶共に、だ。

■誤解その2 さて、現在の年7回の「真宗公開講座」、これまでに何度か「ちょっと多すぎでは？」とのご意見も聞いている。ごもっともだとも思う。主催側としても7回の講座の開催は大変だし、私でも、皆勤しろと言われたらちょっと身構えてしまう。また、先に書いた聴講者数問題は、開催回数を減らせば、1回あたりの参加人数増加は見込めるだろう。更に、限られたセンター予算において、開催回数を減らせば、それだけ1回あたりの予算を増やすこともできる。どの意味

でも、回数減は効率が上がり、幾つかの問題の解決策になり得るように思える。

だが、多数回開講の狙いは人数だけではない。仮に年1回の開催では、その日に予定が入った方は聴講できない。たださえ、常に突発の用事が入り得る僧分であれば尚更のこと。あるいは、やや言いにくいことだろうが、あなたが興味の湧かない講師・講題の回もあるだろう。それでも、1人の聞法者の立場にしてみれば、年1回開講より年7回のほうが聴講の機会は7倍に広がる。7回のうちでどこかでは聞ける(聞いてみようと思える)のではないだろうか。少し乱暴な言い方かも知れないが、人数ではなく、「1人の1回」に向け、真宗公開講座は毎月開催されている。

■結論 もちろん、1人1回という制限があるわけではない。折角の機会、7回聞ける方は是非全回聞いていただきたい。それでも、1回しか聞けないなら1回でも良いから是非聞いて欲しい。それが今の真宗公開講座の願いだ。

今年度のセンター理念は「一『こなす教化』から『願う教化』へ」。僧侶の別無く、1人の「人」が聞法していける場の一端に真宗公開講座があればと思う。

さて、先に書いた「質問その2」に戻ろう。飛騨御坊真宗公開講座は、本年度まだ3回の講座が残っている。質問その2で、Yes.だった方も、No.だった方も、是非再度、お手元の真宗公開講座チラシをご確認いただきたい。

気になる講師・気になる講題を見つけた「あなた」が、聴講料500円を握りしめ御坊会館に足を運んでいただくことが、願われている。

伝道部会 幹事

了泉寺住職 北條秀樹



第42回(今年度)第4回目の真宗公開講座 講師は孤野秀存師

### ★センター・別院からのお知らせ★

#### 第1回企画会議・高山地区組長懇談会ー組門徒会研修・企画会議懇談会

今年度第1回企画会議が1月29日、高山地区組長懇談会が2月15日開催された。主な内容については共通するもので以下の通り。

<組門徒会研修について> 3月10日より新たな組門徒会員の任期を迎えるにあたり、組門徒会研修の在り方について、一部変更がなされた。高山地区については、任期中6回の各組研修会のうち「組門徒会員とは・同朋会運動・宗門財政」以外の3回については、候補となる研修項目は提示しながらも、基本的に各組で選択できることとなった。

<企画会議各組懇談会(巡回)> センター第2期を迎え、教化について各組とセンターとの連携強化をはかりたい。については、企画会議(正副座長)が各組を巡回する形で、各組の教化の現状をお聞きし、懇談し、今後のセンター教化の在り方を考えていく手がかりとしていきたい。実施時期は基本今年3月~5月とするが、各組の事情を踏まえてとなる。早急に実施日の調整を行う。

#### 春季彼岸会(高山別院) 3月17日~23日

- 17日(日) 夏野 了氏(満成寺住職) 明日をも知らないこの私
- 18日(月) 窪田 純氏(圓徳寺住職) 届いていますか？ あなたの供養
- 19日(火) 澤邊恵秀氏(誓願寺前住職) 生死いずべき道
- 20日(水) 三島多聞(別院輪番) 東西南北の磁力
- 21日(木) 小原正憲氏(専念寺住職) いのちの終活
- 22日(金) 光本智見氏(南春寺住職) 因縁果に踊らされて
- 23日(土) 三島見らん氏(西念寺住職) 地獄

#### お彼岸の施本に！ミニ法話集「響」発行

「高山市民時報」で連載し好評を博したミニ法話「響」が冊子になりました。

120回の連載の中から選り抜きの9話を収録。施本に最適です。

1冊200円 お申し込みは、高山教務支所(0577-32-0776)まで。



#### 能登半島地震一炊き出しを実施 飛騨御坊ボランティア委員会

2月21日夜、飛騨御坊ボランティア委員会は、「令和6年能登半島地震」による被災者の方々の1次避難先となっている穴水中学校において、地元「北陸門徒ネット七尾」の協力のもと炊き出しを行い、牛丼(飛騨牛入り)とけんちん汁を提供しました。

現地では使用できる水の量に限りがあるため、前日に高山別院で食材の下茹で等準備を行い、当日の朝出発し昼過ぎに到着、避難所で調理し、夕方には提供を開始しました。

あいにくの雨で寒く、震災の爪痕がまだまだ残る中、たくさんの方々がお越しになり、想定よりも早く、準備していた約250食分の炊き出しが終了しました。

道中、寸断された道路や倒壊した建造物を目にし、また炊き出し中に、地元の真宗大谷派の寺院の方の「再建できるかわからない」という言葉を耳にし、ただ画面越しに見聞きした時よりも、復興するということの難しさを実感させられ、胸が締め付けられる思いでした。

しかし、今回の炊き出しは被災者の方々にご好評をいただき、「ありがとう」や「寒い中ご苦勞様」といった言葉をいただき、被災者の方々を元気づけたいと思っていたこちらが逆に元気づけられました。

今後も継続して支援活動をしてまいりますので、皆さまのご協力をお願い申し上げます。



食材提供:天狗(下呂市萩原町)・(有)下呂特産加工・おみやげのゆめ・NPO すえひろ・特選館あじか 協力:特選館あじか(トラック提供)

## Q編集作業においてご苦労された点は？

【内記】現代語訳は教区内のメンバーで作成  
やはり現代語訳だったと思います。

自分でお聖教を訳すなんてなかなかできません。現代語訳を出版している先生の話聞いて制作することも考えましたが、結局、編集作業に関わる教区内のメンバーそれぞれが案を持ち寄り、先行研究を参考にしながら皆で話し合って訳を決めていきました。三木さんが編集の中心になっていただいたからできた仕事だと思います。

教区内の7人ほどで編集体制を整え、順番に正信偈から現代語訳の検討をしていきました。月1回の集まりから始めて、多いときには月に3回以上集まることもありました。

## 【三木】現代語訳の難しさ—語注が必要と判断

複数の人がそれぞれ担当し聖教に思いを込めて訳を作っているの、その個性は大切にしたいのですが、一冊の本として、訳や表現のブレがあってはいけないと思ひ協議を重ねてきました。

また、現代語ではどうしても表現しつくせないことがあり、その場合は原文のままのほうがいいのか、ということもありました。「これでは訳してない」、一方で「表現しつくせない」という葛藤のなかで、どのように表現していくか大変苦労しました。たとえば、「無量寿」や「無量光」、正信偈や恩徳讃の助動詞「べし」、また御文の「あなかしこ、あなかしこ」などの表現ですね。

「あなかしこ」については、飛騨弁の「うたてえこっちゃ」(ありがたい、申し訳ない、恐れ多い、かたじけないの意)に近いように思います。同じような意味では「こわいこっちゃ」という言葉もあるんです。作業中、いっそ飛騨弁バージョンで作ったらいんじゃない

か、と笑ったこともありました。

それで、2回、3回と校正を重ねる中で、現代語訳中に仏教の言葉をそのまま使った箇所には語注が必要ではないか？というので、当初の構想にはなかった語注も作成することになりました。

## Q根気のいる作業でしたね。

内容について工夫されたことがあればお聞かせください。

## 【三木】「報恩講のおつとめ」を増補

正信偈を読んだ後、念仏と和讃(「五十六億七千萬」次第六首と「三朝浄土の大師等」次第三首)を続けて読みやすいように「報恩講のおつとめ」と題して巻末に増補しました。これは門徒さんのお宅での報恩講、在家報恩講の回復を願ってのことです。

## 【内記】飛騨の地域性を考慮した構成で制作

「まわり報恩講」(在家報恩講)を「三朝浄土の大師等」の三首引で勤めているんです。そのような地域性に合わせて作ったということです。

節譜についても高山教区で作りました。高山別院の列座の准堂衆が書いて本山の確認を取り、助言を得ながらの大変な作業でした。

あと工夫した点としては、本文、現代語訳、書き下しと、どうしても1ページあたりの文字数や情報量が多くなってしまうので、年配の方にも読みやすいような文字の大きさやフォント、配置などを皆で話し合いながら決めました。ちなみに題字は『教行信証』の親鸞聖人御真筆の字からいただきました。

## 【三枝】「真宗のおつとめについて」として解説を加える

赤本には無い掲載内容として、「真宗のおつとめについて」と題し、お勤めをすること、正信偈・和讃・御文

についての解説を加えました。また、現代語訳という観点から、讃歌が中心の同朋奉讃式第一の掲載を取りやめ、その箇所に、先ほど三木さんが触れましたが、語注を掲載いたしました。内記さんが触れられましたが、そういった一部内容の変更はしながらも、正信偈・念仏・和讃・御文は赤本と同じように使用できるようにページ割の工夫がされています。

## 【内記】勤行本を開いてもらう手立てをこちらが考えなくてはならない

発行についての議論をしていく中で、「勤行本を開いてもらう手立てをこちらが考えなくてはならない」と思いました。門徒さんは、お寺からもらったものは大切なものだからお内仏に片づけて、そのままになってしまう。そういうことにならないようにしなくてはならないと考えました。法事の際に持っていたらお勤めもできるし訳も読める。私のお寺では、七日参りにお経をあげないで正信偈、和讃を同朋奉讃で読むようにしています。

そうすると「無明長夜の灯炬なり 智眼くらしとかなしむな 生死大海の船筏なり 罪障おもしろなげかざれ」のご和讃に反応する方がいらっしゃいました。現代に親鸞聖人の言葉に共感する方がいる。では、どのようにその言葉を伝える場を作るのかということ、いよいよ考えなくてはならないという気持ちになりました。

## 【三木】だれにでも手に取ってもらう工夫

葬儀場や介護施設など、不特定多数の人が集まる場に置いてもらい、手に取ってもらう工夫が必要ですね。

内記浄・三木朋哉 / 『正信偈同朋唱和集』編集委員 三枝正尚 / 御遠忌事務局員 (当時)

< 続く >

## 飛騨御坊ホームページ『ひだご坊一口法話』3月

岩佐 眞氏 (吉城組浄永寺住職)

細川 隆一氏 (吉城組浄慶寺衆徒)



WEB一口法話はこちら

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

## 真宗公開講座—第5・6回ご案内

第5回 3月7日(木) 14:00～ 同朋大学主催

「往生をねがうしるし」 市野智行氏 (同朋大学准教授)

第6回 4月3日(木) 15:00～ 高山1組真宗の会主催

「誰のためのお墓なのか」海 法龍氏 (東京教区長願寺住職)



## 飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2024年3月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
1	金			
2	土			
3	日	13:00	別 嘉念坊上人ご命日法要・総会・講話(輪番)	本堂
4	月	14:00	教 解放推進協議会公開学習会	研修室
5	火	13:30	七 青少年会議	センター室
6	水	13:30	七 聖教学習会③	研修室
7	木	14:00	七 真宗公開講座⑤	御坊会館
8	金	13:00	教 岐阜支部坊守・若坊守研修会	WEB
9	土			
10	日	13:00 15:00	別 納骨経 組 朝日高根組 組門徒会研修	本堂 圓城寺
11	月	13:00	別 大谷婦人会定例 法話:三島多聞氏(輪番)	御坊会館
12	火			
13	水	7:00 13:30	別 前住上人ご命日 組 高山2組組会	本堂 御坊会館
14	木	9:00 13:30 13:30	別 おみがき 教 教区坊守役員会 組 高山1組 新任組門徒総会	本堂 照明寺 研修室
15	金	7:00 13:30 19:00	別 一日華 組 高山2組坊守会 組 朝日高根組 寺族研修	本堂 研修室 圓城寺
16	土			

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
17	日	13:00 14:00 19:00	別 彼岸会 法話:夏野 了氏(満成寺住職) 組 朝日高根組 新任組門徒会研修 組 清見組 新任組門徒会研修	本堂 圓城寺 了徳寺
18	月	13:00 14:00	別 彼岸会 法話:窪田純氏(圓徳寺住職) 組 高山2組 新任組門徒会 総会・研修	本堂 御坊会館
19	火	13:00	別 彼岸会 法話:澤邊恵秀氏(誓願寺前住職)	本堂
20	水	13:00	別 彼岸会 法話:三島多聞氏(輪番)	本堂
21	木	13:00	別 彼岸会 法話:小原正憲氏(専念寺住職)	本堂
22	金	13:00 16:00	別 彼岸会 法話:光本智見氏(南春寺住職) 教 高山財務小委員会	本堂 研修室
23	土	13:00	別 彼岸会 法話:三島見らん氏(西念寺住職)	本堂
24	日			
25	月	15:00	教 真宗同朋会 総会	研修室
26	火			
27	水	13:00	別 親鸞聖人御逮夜	本堂
28	木	13:00	別 親鸞聖人御命日・蓮如忌 法話:三島大遵氏(真運寺住職)	本堂
29	金	15:30	組 高山1組末日常会	研修室
30	土			
31	日			

2024年4月 ※中旬までの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
3	水	15:00	七 真宗公開講座⑥	6	土	14:00	七 現代の問題講座
3	水	19:00	七 高山2組若声会	10	水	13:30	七 坊守会高山支部研修会
4	木	9:30	七 得度事前研修会	11	木	14:00	七 解放協議会輪談会